

提供日 2019/04/18
タイトル マダニに咬まれないように注意しましょう！
担当 健康福祉部 医療健康局疾病対策課
連絡先 疾病対策課感染症対策班、環境衛生科学研究所微生物部
TEL 054-221-2986（感染症対策班）、
054-245-2156（環境衛生科学研究所）



－危機管理情報－

マダニに咬まれないよう注意しましょう！
～春から秋にかけて、マダニの活動が活発になります～

1 要旨

春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。マダニが病原体を保有していると、咬まれた人が「**日本紅斑熱**」、「**重症熱性血小板減少症候群（SFTS）**」などの感染症にかかる危険性があります。これらの疾患にかからないようにするために、野外でのダニ対策が重要です。

2 主な感染症

(1) 日本紅斑熱

- 日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有する **マダニに咬まれることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。**
- マダニに咬まれてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- **平成30年には県内で3例発生報告（死亡事例はなし）されました。**うち1例は、前年の症例でしたので発生は2例でした。

(2) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

- SFTSウイルスを保有する **マダニに咬まれることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。**
- マダニに咬まれてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 県内ではこれまで患者の発生は確認されておきませんが、環境衛生科学研究所が実施したマダニ調査によると **県内で採取したマダニからSFTSウイルス遺伝子が検出されています。**

3 注意喚起

(1) マダニに咬まれないようにしましょう！

- 特にマダニの活動が盛んな、**春から秋にかけて注意が必要**です。
- **レジャーや農作業などで、野山や草むら、畑などに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なく**してください。
- マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

(2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！

- マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- 発熱等の症状が見られたら、**早めに医療機関を受診し**、マダニに咬まれた可能性があることを伝えましょう。

4 日本紅斑熱の過去5年間患者数（人）

平成31年は4/9時点

年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
全国	241	215	277	337	305	7
静岡県	0	2(1)	2(1)	6(2)	3※	0

※平成29年10月に発症したが、検体量が少なく平成30年に入って診断された事例1件を含む。